

『いのちをいただく』

1月31日の全校集会は、放送で実施する形になり、皆さんは机の前に座っているということもあって、聴きとった話の感想を書いてもらった。その感想の一部を紹介する。

「私たちがいつも当たり前のように食べている肉も、生まれてきた命があって、それを大切に育ててくれる人がいて、その命を私たちのために殺してくれる人もいて、すごくたくさんの命を私たちは日々食べているんだと思うと、『いただきます』の言葉の大切さをすごく感じました。」(2年2組生徒)「私は食べる量が少なく、よくご飯を残したりしますが、これからはきちんと最後まで残さずに食べようと思いました。」(2年3組生徒)「みーちゃんを殺す時に暴れなかったのは、坂本さんの気持ちが伝わったんだなと思いました。」(1年1組生徒)「肉だけでなく、野菜やお米なども作ってくださる人がいるからこそ、私たちは毎日食べることができているので、好き嫌いせず、農家の人たちの気持ちも考えて『いただきます』『ごちそうさま』をしっかりとって食べるようにしたいと思いました。」(1年1組生徒)「孫が感謝して食べたように私も命をいただくことにもっと感謝をしていこうと思いました。」(1年2組生徒)「誰かがしないといけない仕事を坂本さんがしていることをとても尊敬します。」(1年3組生徒)「当たり前のように毎日食べていますが、その裏で牛を育てる人、牛をお肉にする人がどれだけ大変な思いで仕事をしているのか、この話を聞かなければ知ることにも気にもなることもなかった。」(2年1組生徒)

私がこの話を初めて聴いたのは、もう9年前になる。たつの市にある新宮運送という会社の社長さんの講演の中で取り上げられ、いつか機会があれば生徒に読み聞かせたいと思っていたことが今回実現した。絵本にもなっているので、わかりやすい内容だったと思う。

「牛を殺し解体する、その時が来ました。坂本さんが、『じっとしとけよ、みいちゃん じっとしとけよ』と言うと、みいちゃんは、ちょっと動きませんでした。その時、みいちゃんの大きな目から涙がこぼれ落ちてきました。坂本さんは、牛が泣くのを初めて見ました。そして、坂本さんが、ピストルのような道具を頭に当てると、みいちゃんは崩れるように倒れ、少しも動くことはありませんでした。・・・孫は泣きながら、『みいちゃんいただきます。おいしかあ、おいしかあ。』て言うて食べました。」(『いのちをいただく』より) 放送で皆さんの反応が見えなかったが、素直な気持ちで聴いてくれたようで安心した。

挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校にまた一歩近づいた！！

生徒指導部が行なった12月の生徒アンケート集計、遅刻の集計票を拝見した。

「自分から挨拶をしようと努力していますか」について、「十分に努力している」+「努力している」の割合が7月に87.7%だったものが、12月では92.0%に上昇している。皆さんの努力の跡が見えて、大変すばらしい。この指標で挨拶日本一と考えようとしている。その100%まであとわずかだ。

遅刻については、4月から1月までの累計で令和元年度891件、令和2年度920件、今年度610件と3割以上減らせている。普通秋から冬の厳しい時期は増える傾向があるが、前年比で10月は81件減、11月は67件減、1月は60件減とよく頑張っている。一人ひとりの意識が変わりつつある。予鈴の後に来る生徒の数も少なくなっている。ただ、毎日同じ顔触れが息を切らせてぎりぎりに飛び込んでくる。あと5分早起きして、余裕をもって登校することで、無理のある通学が減って事故にあう確率が減る。1時間目の授業を落ち着いて受けられるようになる。「5分早起き」に挑戦してはどうだ？

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩